



く別院だよりく

モダン寺新聞

第18号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
 〒650-0011
 神戸市中央区下山手通八丁目番号
 TEL 078-341-5949

よろこび

お正月です。なんだか、こう、よろこびを感じるというか、めでたい気分になつてくるものです。そこで、手元の漢字辞書で「よろこび」という項目を引いてみました。すると十九もの「よろこび」を意味する漢字が載ってあったのです。そのうちの一つ「喜ぶ」。これはお正月の雰囲気のように、ウキウキと心によるこびを感じるにすぎません。

次に、「慶ぶ」。これは得るべきことを得たのち、よろこぶ心です。待ち遠しかったお正月が、ついにやって来たときのようなよろこびと言ったらいいでしょうか。

それから「歓ぶ」。これはまちがいがなく得るべきことが決まっています、それをおかねて先よりよろこぶことで、準備が整ったお正月旅行を心待ちにして、体がウズウズしているようなことと言えはいいでしょうか。

ところで、親鸞さまはご自身の救われたよろこびを表されるのに、「慶喜」や「歓喜」、「悦」や「賀」等、よろこびを表す漢字を多様に使い分けられておられるのです。親鸞さまのご本願との出会い、信心のよろこびの深さが伝わってまいります。

ご本願との出会いとは、悲しいことや辛いこととめどなきに埋もれてしまうことなく、すべてを受け入れながら、まことに有り難い人生でありましたと、返ってそのいのちの尊さをうなずかせてもらえらる慶びとの出会いでありました。そして悲喜交々の毎日がお浄土への道中といただき、お念仏を称えるその日その日の私に、豊かな実りをもたらされる歓びの境地がひろがるのであります。

煩惱具足の凡夫を救うと仰せられる阿弥陀さまのご本願。悲憂の思いをかみしめながら、阿弥陀さまのおすくいのためのもしさを味わっていく日々、いよいよ、この上ない「よろこび」が感じられることであります。皆様、このお正月いかがお過ごしでしょうか。

神戸湊組 教覚寺 別所法宣

第九回

「仏教 ことが知りたい」

どこへ行く？ 初詣

あけましておめでとうございませぬ。

みなさん、初詣はもう済ませましたか？ 済ませた方はどちらにお参りに行かれたのでしょうか。きつと神社に行かれたという方がほとんどではないでしょうか。

初詣というものは、新年にあたり、お寺や神社などに、その年初めて参拝することでありませぬ。言い換えれば、その年最初の挨拶をしに行くのであります。だからこそ、本来は、日ごろからお参りしているところへ「あいさつ」に行くものであります。日ごろお世話になっている方のお宅にあいさつに行くということと同じです。

それから、「あいさつ」という点からどうでしょうか。皆さん、神社へ行かれて、「あいさつ」を

しているでしょうか。例えば、無病息災、家内安全、合格祈願などの「お願いごと」をしているのではないのでしょうか。それは、新年早々、我欲をあらわにしているようなものです。新年の初めは、自分自身の日ごろの行いを振り返り反省し、無事新年を迎えることが出来たことに感謝し、また一生懸命生きていくということ新たに誓うことが大切なのではないでしょうか。

日ごろからお参りしている方はもちろん、ご門徒の方々も是非お寺にお参りしていただき、阿弥陀さんに手を合わせ、「お願いごと」ではなく、「あいさつ」をして、日ごろの自分を振り返り、そして、新しく誓うことをしていただきたいと思います。



初心忘るるべからず

前々住上人、仰せられ候う。

「神にも、馴れては、手ですべきことを足するぞ」と、仰せられる。「如来・聖人・善知識にも、馴れ申すほど、御こころやすく思ふなり。馴れ申すほど、弥（いよ）いよ、渴仰の心をふかくはこぶべき事なる」由、仰せられ候う。

(御一代記聞書 第一三八条)

これを現代語に訳すと、

蓮如上人が言われました。「たとえ神前であっても、人は馴れて来ると手ですべきことを粗略に足するようになるものである。それと同じように、如来にも、親鸞聖人にも、善知識である師に対しても、次第に馴れてくると心安く思つて遠慮がなくなってくる。そうではなくて、馴れ親しむほどますます深く帰依し敬うよう、心掛ければならないのである」と、このように仰せになりました。

これは、蓮如上人が「なれる」ということを特に戒められている文であります。

例えば、はじめて人間の内臓手術にあたる医師と長年経験した熟練の医師とでは、誰しも経験者の方を選ぶことでしょう。しかし、いかに経験豊富な人であっても、初心の心を失うと失敗につながってしまいます。人間にはいかなるものでも怠慢の心のないものはなく、慣れるとこの怠慢の心が隙間から出てくるものであります。

仕事等のことだけではなく、人付き合いでも同じようなことが言えるのではないでしょうか。「親しき仲にも礼儀あり」と言います。「手ですることを足する」と蓮如上人が、言われている通り、慣れることによって、怠慢の心が出てくるわたしたちであります。新年を迎えるにあたり、新たに心に誓うこともあるでしょう。それと共に、自分を振り返り、「初心忘るるべからず」を今一度、見直してみたいかがでしょうか。

モダン寺の施設紹介

本願寺神戸別院は、神戸では、通称モダン寺として、地域の方々によく知られています。外見ばかりが目立ち、院内がどうなっているのか、ご存知でない方が、意外と、沢山おられるようです。そこで、モダン寺の院内を紹介させていただきます。

- 大きく分けて、
 - 一階 ホール
 - 二階 事務所
 - 三階 本堂
 - 四・五階 納骨所
- となっております。

本堂

本堂は三階となっております。全席椅子席になっており、内陣はきらびやかな、壮大な造りとなっております。遠方から、団体参拝にいられた方々も、皆さん驚かれて、珍しそうに見ておられます。内陣の明かりは常に灯してあり、いつでもご参拝していただけるようになっています。



すので、法要の時だけではなく、お近くにいられた際には、お立ち寄りいただきご参拝ください。

ホール

一階にあるホールは、多目的ホールとして、設置いたしました。主に使われているのは、お葬儀、研修会等になります。可動式の間仕切りを使い、三部屋に分かれるようになっています。



それぞれの場所に本尊をご安置してあります。

収容人数は、四百人、お葬儀で、利用された場合、参列される方を含め最高で六百人ということもありました。また、お葬儀の際は、遺族用の控室として、和室も用意してあります。もちろん、冷暖房完備です。地下駐車場もあり、五十台停められるようになっていきます。元々は、別院門徒の方々に、

事務所

ご利用していただくことが目的でしたが、貸会場として仏教系他宗派の方にご利用いただくことが多いのが現状であります。お葬儀の際、斎場を使われるのもいいですが、せっかくご自分のお寺でできるように施設が充実しているのですから、是非とも神戸別院をご活用いただければと思っております。

神戸別院の事務所は二階にあります。

ご法事やその他のお参りの受付もこちらでいたしますので、気軽に近くの者にお声をかけてみてください。

出版物の販売、書籍、ビデオの貸出も行っていきます。また、色々な行事の案内パンフレットも用意してあります。

◆◆◆ 神戸別院行事レポート ◆◆◆

別院仏教壮年会旅行

神戸別院仏教壮年会は十月十九日(日)、北山別院・京都大原へと研修旅行を開催しました。

当日は絶好の秋晴れの中、電車で京都へと向かい、まずは北山別院を目指しました。本堂でのお勤め後、本川道法輪番より法話と、「ここ、北山別院は親鸞聖人が六角堂百日間参籠に入るために身を清めたという水があり、御聖水として今も残っています。」と寺院周辺の案内もいただきました。この日、北山別院では初参式が行われており、仏壮会員一同も一緒に参列させていただきました。

続いて向かったのは秋の紅葉が始まろうとしている京都大原・勝林院です。道中、茶屋へ寄り湯豆腐を美味しくいただきました。勝林院は法然上人が南都北嶺の僧侶と宗論を交えた「大原問答」で有名であり、大きな阿弥陀如来聖衆来迎像や観音・勢至菩薩像が安置されておりました。この寺院は大原三千院の奥に佇んでいるのです

が、その外観も庭園も非常に趣があり、素晴らしいものでした。帰りの車内ではお土産を抱えながら「のんびりとした雰囲気の中、本当に有意義な研修旅行が出来た」と会員の方々。

神戸別院仏教壮年会では毎月十六日の午前十時から別院内にて座談会等を開催致しております。皆様、お気軽に参加していただき、真宗のみ教えを通じて親睦を深めていただければと思います。合掌

比叡京の 途に水澄める 聖水山
大原は 魚山声明 秋深む
秋光の 往生院に 弥陀拜む

神戸別院仏教壮年会

谷口 一夫



北山別院の御聖水前にて

初参式

十一月八日(土)午後四時より、神戸別院本堂に於いて、稲永統和(とわ)さん(生後二か月)の初参式を行いました。「らいはいのうた」を参拝されたご家族の方々とお勤めしたあと、輪番の法話をお聴聞し、記念品の式章とお念珠を贈呈しました。門徒式章とお念珠を掛けられた統和さんの小さな体は、なんとも可愛らしいもので、そこに生まれて間もない一つの命があることを実感いたしました。



その尊いいのちを通して、私たちがいのちについて、そして、人間として、生まれさせていただいたことについて、また、自分がこ

れから親として子どもと一緒に生きていくとはどういうことなのかというのを改めて考えさせていただくことが初参式の趣旨であります。お子さんがお生まれになられた際には、是非、ご家族おそろいで初参式にお参りください。

元旦会

年明けの平成十六年一月一日午前七時より、元旦会を勤修いたしました。正信偈を参拝された方々と一緒にお勤めしたあと、総会所にて、祝杯の儀をいたしました。輪番の新年のあいさつのもと、皆さんで乾杯いたしました。乾杯に使った盃は、箱に入れお持ち帰りいただきました。また、今年は一日の朝八時から、NHKで、本願寺御影堂平成大修復についての放送がありましたので、総会所のテレビで皆さんと見てから、解散となりました。



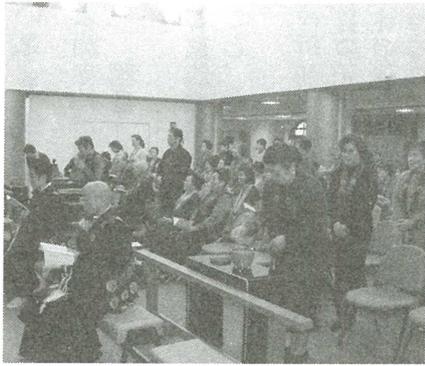
報 恩 講 レ ポ ー ト

法要勤修

十一月二十七日(木)から二十九日(金)までの三日間、「本願寺神戸別院報恩講」を勤修いたしました。

一年を通して、一番大きな法要ということもあり、本当に大勢のご参拝をいただきました。

また、午後五時半からの初夜法要では、親鸞聖人の生涯を記した「御伝鈔」を拝読いたしました。本堂の明かりをほとんど消し、ロウソクを灯した静寂の中、御伝鈔を拝読する声だけが響き、まさに、重々しくも穏やかな時間が流れていました。これは、数ある法要の中でもこの報恩講でのみ行われることですので、是非来年味わっていただきたいと思えます。



法要中の様子 大勢のご参拝いただきました

チャリティーバザー開催



大盛況/まさに、飛ぶように売れました

二十七日の速夜法要、二十八日の大速夜法要の終了後一階ホールにて、開催した「チャリティーバザー」は、今年も大盛況でした。たくさんの方々のご協力によって、集まった様々な品がところ狭しと並んでいたのですが、バザーを開始して、二、三十分経たないうちにあっという間になくなっていききました。大きな紙袋に品物をいっぱい入れておられるのを見ると、開催した甲斐があったと思ふことでした。

また、今回の売り上げの総額は、十万五千五百四十円でした。こちらの売上金額を「浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金」に寄付いたしました。

精進料理に舌鼓

バザーと並行して、隣のホールでは、お斎接待をいたしました。別院仏教婦人会の方々、朝早くから準備をしていただき参拝に來られた皆さんの分のお斎をご用意していただきました。法要も終わり、丁度食事時ということもあり、皆さんお腹がすいていたのでしよう。もくもくと食べる方、おしゃべりを楽しみながら食べる方、たまたま相席したご縁で仲良く食べる方、色々な楽しみ方をされておられたようです。



みんなで食べるとおいしいですね

コーラスで仏教讃歌

兵庫教区寺族婦人会の方々のコーラス隊による、仏教讃歌の合唱を各法要終了後、三日間に

巨り披露していただきました。本堂に響く歌声は読経の声とは違い、なんとも清しい気分になりました。最後には「報恩講のうた」を皆さんと一緒に歌いました。



コーラス隊の皆さん
すばらしい歌声有り難うございました

こうして今年の報恩講も無事修めることができたのも、教区内寺院からご出動いただいたご法中方、その音色で法要を引き締め、より華やかなものにしていただいた奏楽員の方々、すばらしい歌声を披露してくださった兵庫教区寺族婦人会の方々、バザーの準備から販売までいただいた別院仏教壮年会の方々、お斎を作っていた別院仏教婦人会の方々、ご門徒の皆さん、その他大勢の方々のご懇念とご協力があったからこそです。ありがとうございます。

新しい年を迎えて

本願寺神戸別院
輪番 井上 博雄

新年をご家族お揃いで、迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

本願寺神戸別院に着任以来、早くも三回目の元旦を迎えました。別院ご門徒の皆さまには、大変お世話になっておりますこと、厚く御礼申し上げます。

別院からお配りいたしました真宗教団連合のカレンダー、一月のところをめぐりますと、雪中にエゾマツと北キツネの絵とともに「いままで 見えていなかった世界を 見せてくださる「智慧の光」という、言葉が書かれています。一度じっくりとご覧になって下さい。日ごろ聞かせていただいている何気ないことばではありますが、実に味わい深い意味を感じさせていただけます。

浄土真宗（西本願寺）のお流れをくまさせていただく私たちは、み仏さまの前で「南無阿弥陀仏」と、お念仏を申してはおりますが、日ごろの生活態度は、すべての出来事を「当たり前」と受け止め、自分自身で生きていると思ってお

ります。あくまでも己を中心点に置き、そこから円が広がっているという考え方が抜け切れません。

だからこそ、気に入ってしまったものなら円の中に迎え入れることは出来ても、気に入らないものには排除してしまう独りよがりな生き方になってしまうがちです。故にあちらこちらで衝突し、争い、勝った、負けた、で一喜一憂している私の姿が浮かび上がってくるのです。

そのような私たちではありませんが、み教えを聞かせていただくことによって、己が円の中心ではなく、「南無阿弥陀仏」こそが円の中心点でありましたと、気づかせていただく「智慧の光」であります。「いままで 見えていなかった世界を 見せてくださる」という言葉は、己が中心点では無かったと知らされたからこそ、出てくる感謝の心、感謝の生き方であります。すべての事を当たり前と受け止めていたことが、当たり前では無かった。おかげさまでしたと、感謝の日々を送らせていただきましたものであります。

ご門徒の皆さまにとって、意義のある毎日でありますことを念じ、新年の挨拶とさせていただきます。

合掌

別院行事予定

一月

○別院常例法座

十五日（木）・十六日（金）
午後一時半より

講師 北撰組 安樂寺
佐々木 知 見 師

○別院常例法座

十五日（土） 午後一時半より

講師 養老 孟 司 氏

○別院常例法座

二十日（火） 午後一時半より

講師 本願寺神戸別院輪番
井上 博 雄 師

○別院常例法座

二月

○第一土曜仏教講座

別院仏教婦人会定例法座

七日（土） 午後一時半より
講師 淡路組 宣徳寺
藤 榮 行 信 師

○別院常例法座

十五日（日）・十六日（月）
午後一時半より

講師 阪神西組 浄専寺
藤 岡 良 治 師

講師 本願寺派司教
紅 煤 英 頭 師

講師 加古川組 金照寺
宰 務 清 子 師

講師 赤穂北組 浄蓮寺
増 井 浄 見 師

講師 青春朱夏白秋冬
講師未定

三月

○第一土曜仏教講座

六日（土） 午後一時半より

講師 本願寺派司教
紅 煤 英 頭 師

○別院常例法座

七日（日） 午後一時半より

講師 加古川組 金照寺
宰 務 清 子 師

○別院常例法座

十五日（月）・十六日（火）
午後一時半より

講師 赤穂北組 浄蓮寺
増 井 浄 見 師

講師 青春朱夏白秋冬
講師未定

○春季彼岸会

十九日（金） 二十一日（日）
午後一時半より

講師未定